



# えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 役場 国体推進課 内線4203・4204

No.24

今年の秋に開催される「<sup>えがお</sup>愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます（※紹介順は届け出順です）

## 川上民泊協会(川上／三島地区)



会長 駄場 豊

駄場会長は、この民泊が川上区の活性化につながる良いきっかけだと感じています。

昨年、民泊協会の人たちを対象に、山口県防府市で行われた民泊先催地視察研修。防府市は、2011年に開催された山口国体で、鬼北町同様少年女子バレーボール競技で民泊が実施されました。研修中、現地の人から「今でも選手やスタッフたちとの交流がある」と聞いた駄場会長は、川上民泊協会も選手たちとそのような関係を築けるよう、心温かいおもてなしをしたいと考えています。「国体の成功は民泊からと言われている。何年経っても国体の時期になれば、協会の人たちと笑顔で語り合えるような民泊にしたい」と、強く意気込んでいました。

徐々に盛り上がりを見せている川上民泊協会。互いに意見を出し合いながら、賑やかに調理実習を行う調理班の人たちや、歓送迎会のプランを次々と考案する協会の人たちの姿に駄場会長は「心強い味方。一丸となって、必ず民泊を成功させたい」と話すその目から、強い熱意を感じました。

## 吉波民泊協会(吉波／好藤地区)



会長 入山 一郎

吉波区は好藤地区の運動会で5連覇を果たすなど、団結力ではどこにも負けない自信があります。

入山会長は民泊するにあたり、楽しみにしていることが2つあります。1つ目は、子どもたちが一流の選手と触れ合うことができること。スポーツマンシップにのっとった選手たちの立ち居振る舞いから、子どもたちに多くのことを感じてほしいと願っています。2つ目は地域が盛り上がること。以前と比べ、横と横とのつながりが薄れてしまった今、この民泊が良い契機となり吉波区の活性化につながると考えています。一方で、「吉波区はシャイな人が多いので、元気な応援ができるか心配」と、不安をのぞかす入山会長。しかし、「選手たちが全力でプレーする姿を目の当たりにしたら、自然と応援に力が入るかもね」と、期待を膨らませていました。

入山会長は、「吉波を直訳すると「ラッキーウェーブ」。この地名にちなみ、選手たちが幸運の波に乗れるよう、精一杯サポートしていきたい」と、意気込んでいました。